

県立高等学校再編計画骨子

はじめに

1 計画の趣旨

- ・ 中学校卒業生数の急激な減少、生徒の多様化、不登校や中途退学等の教育課題の深刻化など、県立高等学校を取り巻く状況はますます厳しさを増しており、全県的な高等学校再編は避けられない状況にあることから、県立高等学校の質的向上を図り、子どもたちにより良い教育環境を提供するため、県立高等学校再編計画（以下「再編計画」という。）を策定する。

2 目標年次と実施計画

- ・ 再編計画では、今後の県立高等学校の将来像を示すための長期的な計画として、10年後の平成25年度（平成26年3月）を目標年次に、高等学校再編を段階的に実施する。

計画の基本的な考え方

1 学校をめぐる状況

- ・ 近年の教育状況と課題
- ・ 高等学校教育の変遷と全国の動向

2 県立高等学校の課題

（1）生徒減少

- ・ 今後9年間の大幅な生徒減少と高知学区への集中

（2）生徒の多様化

- ・ 高等学校進学率の上昇に伴う生徒のニーズの多様化
- ・ 不登校や中途退学などの教育課題の深刻化

（3）学力向上と進路保障

- ・ 幼保小中高等学校で連携して取り組む一貫した学力向上対策
- ・ 生徒の能力や適性を生かす進路の実現と「生きる力」の育成
- ・ 進学面や就職面での課題

3 再編の基本的な方向

- ・ 子どもたちにより良い教育環境を提供し、高等学校教育として十分に教育効果を上げるために、「特色ある学校づくり」と「県立高等学校の適正な規模と配置」を進めていく。

（1）特色ある学校づくり

- ・ 学力の向上を図り、生徒や保護者の進路に関する期待に応えられる学校
- ・ 様々な動機や学習歴を持った子どもたちにも門戸を開く学校
- ・ 社会や産業構造の変化に応じた教育ができる学校
- ・ 地域に開かれた生涯学習の拠点となる学校

（2）県立高等学校の適正な規模と配置

- ・ 地域の拠点となる学校の適正規模（1学年4～8学級）の維持
- ・ 普通科、専門学科の配置や入学定員の比率の適正化
- ・ 平成12年の県立高等学校教育問題検討委員会の報告を基本として、通学条件等の整備も考慮しながら統廃合を行う。

再編計画の概要

1 特色ある学校づくり

(1) 普通科高校の特色化

- ア 進学に特色を持つ高校
- イ 理科・数学教育に特色を持つ高校
- ウ 英語・国際教育に特色を持つ高校
- エ 体育・芸術・情報・環境・福祉等に関するコースや系列を併設する高校

(2) 新しいタイプの高校の設置

- ア 単位制高校の拡大
 - (ア) 高知学区に全日制単位制高校の設置
 - (イ) 昼夜開講の多部制単位制高校を地域バランスも考慮して設置
- イ 高知学区で産業系分野を系列の中心に置いた総合学科の設置
- ウ 高吾学区や高知学区での中高一貫教育校の拡大

(3) 専門高校の充実

- ア 産業系総合高校の拡大
- イ 社会の変化や産業の進展に対応した学科の改編及び整理・統合
- ウ 地域・企業・大学等との連携

(4) 定時制・通信制課程の改善

- ア 昼間部と夜間部及び通信制を併置した定時制・通信制教育の拠点的な学校の配置、併せて、周辺の定時制・通信制課程の再編
- イ 生涯学習の機能の充実

(5) 女子校の共学化

2 県立高等学校の適正な規模と配置

(1) 学校・学科の適正規模の基準

(ア) 基準

- ・適正規模は1学年4～8学級
- ・本校の最低規模は1学年2学級
- ・分校の最低規模は1学年1学級20人以上
- ・定時制課程の最低規模は、1学年1学級10人以上

(イ) 統廃合にあたっての配慮事項

- ・学校間連携、中高連携などで中山間地域の教育の振興や学校存続に努めること。
- ・なお、生徒の確保ができない場合には通学条件に配慮しつつ、学校施設設備の有効利用や、保護者の経済的負担を軽減するための条件整備等も、市町村等関係機関と連携し検討する必要がある。

(2) 学校・学科の適正配置

ア 全日制課程

- ・現在の全日制高等学校39校を、平成25年度には31校程度にする

イ 定時制課程

- ・現在の定時制高等学校14校を、平成25年度には10校程度とする。

ウ 通信制課程

- ・現在の通信制高等学校2校を、平成25年度には2～3校程度とする。

実施計画

第1期の実施計画として「第1次実施計画」を次のように策定する。なお、実施予定年度入学生より適用する。

第1次実施計画では、下記の他に、昼夜開講の多部制単位制高校等の周辺の定時制と通信制課程の再編を行う。また、必要に応じて、専門高校の学科改編を行う。

地域	年度	対象	学校タイプ	学校の特徴
東部	18	中芸	昼夜開講の多部制単位制普通科高校	<p>「個々のライフスタイルに応じた学び方ができ、地域とともに伸びる学校」 [昼間部]・3年で卒業が原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学に対応した系や、福祉、情報など3～4系列を目安に、普通科目を中心とした多様な選択科目を設定 ・地域の教育力を生かした体験型学習の導入 ・ボランティア活動やインターシップなどの学校外学修や資格取得による単位認定 ・地域に開かれた生涯学習講座の開催や、社会人が学ぶ聴講生制度の導入 <p>[夜間部]・特別講座の受講や通信制のスクーリングを置き、3年で卒業が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通教科を中心とした編成を行い、基礎・基本を重視した授業を展開
高知	17	高知丸の内	男女共学の全日制単位制普通科・全日制音楽科併設高校	<p>「多様な生徒のニーズに応える柔軟な学びのシステムを持ち、大学との連携等に特色を持たせた学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心、進路希望等に対応した特色ある系列として、自然科学系、人文社会系、総合文化系、情報ネットワーク系、生活福祉系などの5系列を置き、多様な教科・科目を設定（家政科の教育内容は、生活福祉の系列で継承） ・大学や専修学校との連携 ・生徒支援体制(入学時からのガイダンス機能、カウンセリング体制)の充実 ・中途退学者の受け入れのための特別枠の設定
		高知北	通信制を併置した昼夜開講の多部制単位制普通科高校	<p>「心のケアを充実し、多様なニーズを持った生徒が目標に向かって柔軟に学び、チャレンジのできる学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を重視し、少人数でのわかる授業の実践 ・午後の時間帯を活用した、「共通講座」や「特別講座」を設置し、定時制（昼間部、夜間部）と通信制が相互併修や乗り入れによる連携強化 ・多様な生徒たちへの支援対策として、外部専門組織の協力を得る「ハートフルドア（仮称）」を組織化するなど、カウンセリング機能の強化
	18	高知園芸	農業系列を中心にした総合学科高校	<p>「体験学習を重視し、農業教育の良さを生かした人間教育を行う学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業系列を中心に4～6系列を置き、生徒一人ひとりの興味・関心、進路希望等に対応できる教育課程の編成（農業科の教育内容は農業系列で継承） ・基礎・基本を大切にわかる授業を実践し、一人ひとりの力を引き出す学校 ・地域と一体になった学校を目指す（校外での学習活動や地域講師の活用、公開講座の開催など）
高吾	18	久礼	募集停止	<ul style="list-style-type: none"> ・須崎高等学校にある生活創造系列の充実 ・須崎工業高等学校に女子生徒が興味・関心の持てる科を設置
幡多	17	大方商業	通信制を併置した昼夜開講の多部制単位制普通科高校	<p>「個々のライフスタイルに応じた学び方ができ、地域とともに伸びる学校」 [昼間部]・3年で卒業が原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス、総合科学、社会教養（いずれも仮称）の3コース（系列）に多様な選択科目を設定（現在の商業科、情報科の教育内容は、ビジネスコースで継承する）コース（系列）を越えた選択も可能 ・地域に開かれた生涯学習講座の開催や、社会人が学ぶ聴講生制度の導入 ・簿記検定、情報処理検定等の資格取得が可能であり、ボランティア活動、インターシップなどの学校外学修とともに単位認定 <p>[夜間部]・昼間部午後の特別講座や通信制のスクーリングを置き、3年で卒業可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通教科を中心としたカリキュラムを編成し、基礎・基本を重視した授業展開 ・選択科目として商業の科目を置き、資格取得に取り組む <p>[通信制課程]・普通教科を中心としたカリキュラムを編成、基礎学力の確実な定着</p>